

歌唱共通教材／文部省唱歌の「本伴奏」に関する覚書

山 田 啓 明

(キーワード：小学校歌唱共通教材，文部省唱歌，本伴奏)

本論文について

本論文は小学校歌唱共通教材《うみ》、《茶摘み》、《春の小川》、《ふじ山》、《まきばの朝》、《もみじ》、《こいのぼり》、《冬げしき》、《おぼろ月夜》、《ふるさと》、《われは海の子》計11曲の文部省唱歌を昭和7年から22年にかけて文部省自身が発行したピアノ伴奏の楽譜、現行の小学校音楽教科書の教師用伴奏楽譜、ならびに教員養成課程用テキストの楽譜と比較して、その異同を明らかにする。そして「本伴奏」の意味を考え、クラシックの演奏家が楽譜を選定する際の規準を提供する。

歌唱共通教材の「本伴奏」とは

2022年8月、私とアルト歌手の小川明子は新しくリリースするCD『唱歌・童謡名曲集（仮称）』の録音を行った。クラシックの演奏家ならば、演奏する際にはオリジナルの原典版やオーセンティックな校訂版の楽譜を使いたいものである。実は筆者は当初、文部省唱歌の演奏にあたって長年授業でも使っていた、音楽之友社による小学校教員養成課程用のテキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年告示「小学校学習指導要領」準拠小学校教員養成課程用』2020（以下、音友版と略記）に掲載されている「本伴奏」の楽譜を使えばいいと思っていた。しかし、ある時に実際の教科書の教師用指導書の方がよりオーセンティックであろうと調べてみたところ、この「本伴奏」という言葉が曲者であることが分かってきた。上記音友版のテキストには見開きに「簡易伴奏」と「本伴奏」の楽譜が掲載されていたので、筆者は「本伴奏」とは「本物の伴奏」、つまり楽曲本来のオリジナルな伴奏だと思い込んでいたのである。ところが、たとえば本稿執筆2022年時点で教育芸術社、教育出版の2社が発行する小学校音楽教科書の教師用指導書に掲載されている《ふるさと》の「本伴奏」の楽譜は、教育芸術社のものは音友版と若干の違いが存在し、教育出版の「本伴奏」は石井欽編曲による、全く別の伴奏であった。どうやら教科書の教師用指導書における「本伴奏」とは、教育芸術社版で「本格伴奏」と記されているとおり、必ずしもオリジナルな伴奏という意味ではなく鑑賞に耐えうるような本格的な伴奏という意味であるらしいこと、歴史的な正統性を問う対象ではないことが分かってきたのである。それでは演奏家にとってオーセンティックな文部省唱歌の伴奏楽譜は、どこで見つけることができるのだろうか。

各種の版の比較

明治43（1910）年の『尋常小学読本唱歌』、続く明治44（1911）年の『尋常小学唱歌』の発行に始まる文部省唱歌は、それらが発行された時点では正式な伴奏はなかった。そして文部省自身が伴奏付きの楽譜を発行したのは昭和7（1932）年の『新訂尋常小学唱歌伴奏附』以降のことである。藍川由美は自身の校訂による『日本の唱歌【決定版】—改訂版・楽曲解説・歌詞発音新案ローマ字表記付き—』（以下藍川版と略記）の前書きにおいて、オリジナルの伴奏を特定することの困難さを吐露している（藍川版では、所収の文部省唱歌について上記『新訂尋常小学唱歌伴奏附』を底本としていることを前書きで明記している）。この藍川版で演奏する、あるいはその底本となっている『新訂尋常小学唱歌伴奏附』（以下7年版と略記）をそのまま演奏に使うのは理にかなっているが、たとえば藍川版とは異なるものの、一般に流布し、筆者が今まで「本伴奏」と思い込んでいた、たとえば音友版の《春の小川》の魅力的な伴奏に歴史的な正統性はないのかといえ、この伴奏は昭和17年に文部省が発行した『初等科音楽—教師用』まで遡ることができる。文部省は昭和7年の『新訂尋常小学唱歌伴奏附』、

昭和16～18年の『ウタノホン上／うたのほん下／初等科音楽一～四 教師用』（以下16年版と略記）、そして昭和22年の『〇年生のおんがく／音楽』（以下22年版と略記。児童用と教師用とがあるが内容に違いはみられず、いずれにも全曲に伴奏がついている）で、都合3回伴奏のついた楽譜を発行していて、そのたびに曲が差し替えられたり、歌詞や伴奏の変更がなされたりしている。現在上記いずれの版も、全学年の楽譜が国立国会図書館デジタルコレクション、あるいは広島大学図書館教科書コレクション画像データベースからPDFでダウンロード可能である。筆者はこれらをそれぞれ、オリジナルとして演奏可能な版とみなし、その上でこれらを比較に利用する。続いて、現在流通する楽譜の検討においては、まず手に入りやすい教員養成用のテキストとして音友版を7年版、16年版、22年版と比較する。続いて現行の教育芸術社版（教芸版『〇年生の音楽』）、教育出版版（教出版『音楽のおくりもの〇』）の音楽科教科書の指導書（伴奏編）と比較する。また昭和7年版を底本とする藍川版についても念のために触れておきたい。なお全音楽譜出版社から出ている長田暁二編著『日本唱歌名曲集』1998は、表紙にわざわざ「オリジナル伴奏付」と銘打っている。これも『長田版』と名付けて、比較の俎上に載せる。なお、楽譜上の特定の位置を示す場合は、小節や拍ではなく1番の歌詞を用いたい。そして場所を特定する方法として「にっぽんいちのやま」のようにゴシック体を用いることとする。ヘアピン型のクレシェンド、デクレシェンド記号は<、>で略記するが、各版でその範囲はまちまちである。ただ、その範囲を厳密に文章で表記するのは煩雑だし、スラーの範囲ほど演奏に影響はないので、1拍程度の伸び縮みは無視している。fやpの多少の位置のズレも同様である。なお、本論は伴奏に特化し、歌のパートや歌詞については特別な事情のないかぎり触れていない。

《うみ》（現行第1学年）

初出は昭和16（1941）年2月27日発行の『ウタノホン上』に《ウミ》として掲載。比較に用いたオリジナルの伴奏は昭和16年6月10日発行の『ウタノホン上 教師用』（16年版、国会図書館蔵）。22年版には掲載がない。なお、掲載の有無については、江崎公子、澤崎真彦編著『唱歌大事典』で確認している。

16年版：ト長調、ゆったりと、そして憧れる様な気持ちで♩=88。「ゆったりと、そして憧れる様な気持ちで」という表記およびメトロノーム記号は教師用のみで、児童用の教科書には書かれていない。また以下で比較する版にも継承されていない。

音友版：ト長調、♩=88。音は16年版と同じ。しかし、冒頭「うみはひろいな」の2小節のみ右手、左手それぞれにスラーが加えられている。

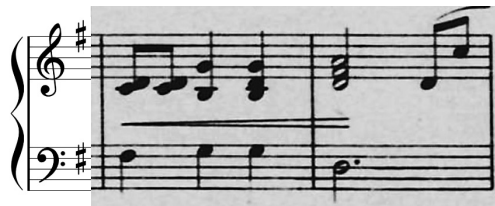
教芸版：ト長調、♩=88～100。16年版と同じだが、歌の前後に繰り返し記号が入っている。

教出版：ト長調、♩=88ぐらい。歌の前後に繰り返し記号が入っている。【譜例1】と【譜例2】を比較すれば分かるように、「おおきいな」の小節の3拍目の8分音符にオクターブ上の二音が加えられ、続く「つぎのぼるし」の箇所のでクレシェンドが2小節に渡って延長されている。

【譜例1】教出版「おおきいな」



【譜例2】16年版「おおきいな」



藍川版：記載なし。

長田版：ト長調、♩=88。16年版などと音は同じだが、「おおきいな」の<クレシェンド>がなくなっている。

《茶つみ》（現行第3学年）

初出は『尋常小学唱歌』第三学年用1912年3月30日発行に《茶摘》として掲載。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附』第三学年用昭和7年5月28日発行版（広島大学蔵）、昭和10年6月15日訂正発行版（筆者蔵）。昭和16年版と昭和22年版に掲載はない。

7年版：ト長調、♩=104。筆者蔵の昭和10年訂正発行版と広島大学のPDFの印影に違いは見られない。

音友版：ト長調、♩=104。7年版と違いはない。

教芸版：ト長調、♩=100～108。メトロノーム記号以外7年版との違いはない。

教出版：ト長調， $\text{♩} = 104$ ぐらい。「わかばがしげる」右手の1拍目の4分音符にスタッカートがついている。

藍川版：ト長調， $\text{♩} = 104$ 。「わかばがしげる」右手の1拍目の4分音符にスタッカートがついているのは教出版に同じ。右手のスラーがゴシック体「あかねだすきに」にかかっている。対して昭和7年版をはじめ他の楽譜はいずれも「あかねだすきに」にスラーがかかっている。

長田版：ト長調， $\text{♩} = 104$ 。7年版と違いはない。

《春の小川》（現行第3学年）

初出は『尋常小学唱歌第四学年用』大正元（1912）年12月15日発行。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第四学年用』昭和8年2月15日発行（7年版，広島大学蔵），昭和10年6月15日訂正発行版（7年版，筆者蔵），『初等科音楽一 教師用』昭和17年4月30日発行版（16年版，国会図書館蔵），『三年生の音楽』（教師使用分）昭和22年5月15日翻刻発行版（22年版，広島大学蔵）。それぞれの版で歌詞が異なることはすでに知られている。

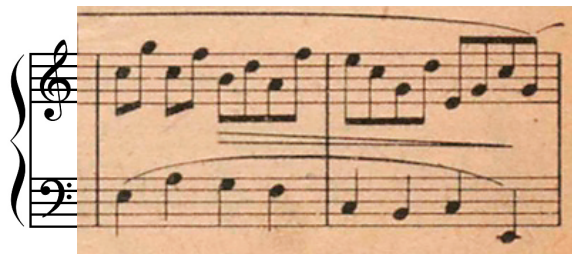
7年版：ハ長調， $\text{♩} = 104$ 。現在一般に知られている伴奏とは全く異なる版であり，前奏がD.C.して間奏・後奏として演奏されるのが特徴である。なお，昭和8年版と昭和10年訂正発行版の間に違いはみられない。

16年版：ハ長調，さわやかに $\text{♩} = 104$ 。現在一般に知られている伴奏のオリジナルと考えられる。

22年版：ハ長調， $\text{♩} = 104$ 。音や強弱記号は16年版と同じ。ただし16年版では歌が始まる箇所にはlegatoと記載があるのに対して22年版にはなく，そのかわりに16年版にはなかった両手のスラーが書き込まれている。

音友版：ハ長調， $\text{♩} = 104$ 。8分音符の連符が，22年版は2つずつに対して音友版では4つずつになっている。また，音友版では「すがたやさしく」にp，「さけよさけよと」にmfが追加されている。なおスラーの書き方であるが，22年版と一箇所だけ違いがある。【譜例3】と【譜例4】を比較すれば分かるように，22年版では「いろいろつくしく」の右手の4拍目裏の8分音符が，前のスラーの最後で次のスラーの最初になっているのに対して，音友版では次の小節からスラーが始まっている。

【譜例3】22年版「いろいろつくしく さけよさけよと」



【譜例4】音友版「いろいろつくしく さけよさけよと」



教芸版：ハ長調， $\text{♩} = 100 \sim 108$ 。メトロノーム表記以外は音友版に同じ。

教出版：ハ長調， $\text{♩} = 104$ ぐらい。強弱記号は音友版に同じ。ただし，【譜例5】で分かるとおり，「いろいろつくしく」のスラーが，教出版では前のスラーが4拍目の「ハ音」で終わり，次のスラーが4拍目裏の「ト音」から始まっている。また左手のホ音が前後のスラーからはずれている。

【譜例5】教出版「いろいろつくしく さけよさけよと」



藍川版：ハ長調， $\text{♩} = 104$ 。7年版に同じ。ただし，最後の「さけよさけよとささやく」の3小節間，7年版では左手に1小節ごとにスラーが付いているのに対して，藍川版ではなくなっている。また，前奏の8va記号の使い方が，7年版では右手4小節全体に渡っているのに対し，藍川版では1小節目のみに使用をとどめている。

長田版：ハ長調，さわやかに $\text{♩} = 104$ 。16年版に同じ。ただし歌詞は昭和7年以前の版に拠っている。

《ふじ山》（現行第3学年）

初出は明治43（1910）年7月14日発行の『尋常小学読本唱歌』に《ふじの山》として掲載。オリジナル伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第二学年用』昭和7年5月28日発行，昭和10年6月15日訂正発行版（7年版，いずれも広島大学蔵），16年版と22年版には掲載されていない。

7年版：ニ長調， $\text{♩} = 96$ 。昭和7年5月28日発行版と昭和10年6月15日訂正発行版との間に違いはみられない。両者とも前奏3小節目3拍目の左手のイ音の付点四分音符の点が欠けている。

音友版：ハ長調， $\text{♩} = 96 \sim 100$ 。音の上では調性以外何ら違いはないが，「いちのやま」の右手が7年版では上声の2音のみ掴むよう指示しているのに対して音友版では3音を掴むように変更されている。

教芸版：ハ長調， $\text{♩} = 92 \sim 100$ 。ハ長調である点を除き7年版と同じ。「いちのやま」の右手が上声3音を掴む指示は音友版に同じ。

教出版：本伴奏（ハ長調，編曲者不明）は7年版とは異なる。ただし，「参考楽譜」が7年版と同じなので，こちらを比較対象とする。ニ長調， $\text{♩} = 96$ ぐらい。「うえにだし」に昭和7年版にない＜クレシェンド＞がついている。

藍川版：ニ長調， $\text{♩} = 96$ 。教出版同様，「うえにだし」に7年版にない＜クレシェンド＞がついている。「いちのやま」の右手が上声3音を掴む指示は音友版に同じ。

長田版：ニ長調， $\text{♩} = 96$ 。7年版と同じだが，「うえにだし」に昭和7年版にない＜クレシェンド＞がついている。「みおろして」の左手の最低音が嬰へ音となっているのは明らかにイ音の誤植である。「いちのやま」の右手が上声3音を掴む指示は音友版に同じ。

《まきばの朝》（現行第4学年）

初出は昭和7（1932）年12月10日発行の『新訂尋常唱歌第四学年用』に《牧場の朝》として掲載。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第四学年用』昭和8年2月15日発行版（7年版。広島大学蔵）と昭和10年6月15日訂正発行版（7年版。広島大学蔵），『初等科音楽三 教師用』昭和18年5月15日発行版（16年版。国会図書館蔵），『五年生の音楽』（教師使用分）昭和22年6月5日翻刻発行（22年版。広島大学蔵）。

7年版：ニ長調，4／8拍子， $\text{♩} = 132$ 。昭和8年発行版と昭和10年訂正発行版とに違いはない。現在継承されている伴奏とは相当異なっている。

16年版：ニ長調，4／4拍子，さわやかに $\text{♩} = 132$ 。拍子が4／4に，音価が2倍に直されている。7年版が元になっているものの，もはや別の版である。なお，後述する版は全て16年版が元になっている。長田版をのぞく他の版にみられず，この16年版のみにみられるのは，歌の冒頭「ただいちめん^にたちこめた」の第2，第4小節の2拍目裏にあるp記号である。他の版では1つ目のpはなくなり，2つ目のpは4拍目「まきばのあさの」にずれ込んでいる。

22年版：ハ長調，4／4拍子， $\text{♩} = 132$ 。「ポプラなみきの」の右手にト音が加えられていること，前述の2つのpの件以外，音や強弱記号は16年版と同一だが，16年版と比較すると，様々な場所でアーティキュレーションに変化が見られる。たとえば【譜例6】，【譜例7】にみられるように，前奏2小節目3拍目の前打音がついた右手の付点4分音符，6小節目2拍目の4分音符のスタッカートがなくなっている。

【譜例6】16年版の前奏



【譜例 7】22年版の前奏



その他にも、「ただいちめんに」の4分音符に何故かスタッカートが加わり、「まきばのあさのきりのうみ」でのスラーのかかりかたも異なっている（16年版では「まきばのあさの | きりのうみ」，22年版では「まきばの | あさのきりのうみ」）。「ポプラなみきの」の左手のアクセントがなくなっているのは誤植であろう。また後奏でも最後の2小節におけるスラーのかかりかたが異なり，また22年版では最後の小節の1拍目にスタッカートが加えられている。

音友版：ハ長調，さわやかに♩=132。音符と強弱記号は22年版と同じだが，アーティキュレーションは16年版と22年版との折衷版ともいえる。【譜例8】からもわかるように，前奏2小節目と4小節目のアーティキュレーションを揃えている（2拍目の4分音符にスタッカートがあつたりなかつたりするのは何故であろうか）。「まきばのあさのきりのうみ」でのスラーのかかりかたは，まさに16年版と22年版の折衷で，「まきばの | あさの | きりのうみ」となっている。22年版で新たに加わっているのは「いさましく」における両手の2つの2分音符につけられたアクセント記号である。なお，後奏のアーティキュレーションは16年版と同じ。

【譜例 8】音友版前奏



教芸版：ハ長調，♩=126~138。「本格伴奏」として筆頭に掲げられているのは長谷部匡俊編曲版。「伴奏2」として，16年版が掲載されている。前奏は【譜例9】から分かる通り，16年版の改良版といった様子で，第2，第4小節の3拍目の付点4分音符からスタッカートが消えている。ただし，他の版にみられないのは前奏最後の小節1拍目の両手の4分音符のスタッカートである。「まきばの | あさの | きりのうみ」のスラーは音友版と同じ。また，「ポプラなみきも」の両手のアクセントがなくなっているとともに，「カンカンと」に＜クレシェンド＞が加わっている。なお，後奏のアーティキュレーションは16年版，音友版と同じ。

【譜例 9】教芸版前奏



教出版：ハ長調，♩=132ぐらい。曲の後半に大きな改変が加えられている。「ポプラなみきのうっすり」と，「カンカンと」の箇所，16年版，22年版とは全く異なる伴奏となっていて，これはすでに別の版である。

藍川版：掲載なし。

長田版：ニ長調，さわやかに♩=132。基本的に16年版と同じ。ただし，歌の冒頭「ただいちめんに」には16年版にはなかった＜と＞が加わり，2つのpの位置が2拍目にと，やや前にずれている。

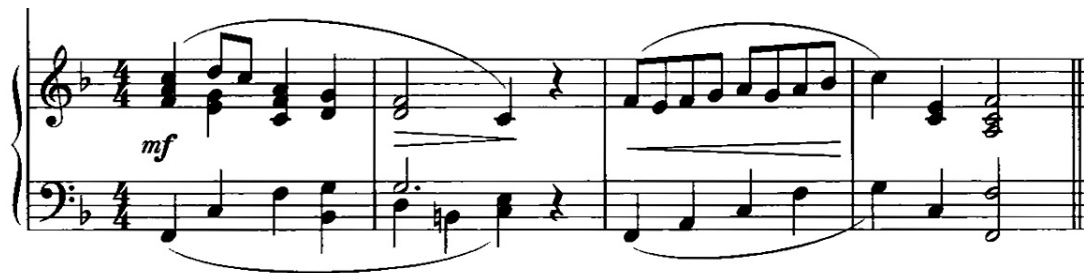
《もみじ》(現行第4学年)

初出《紅葉》として『尋常小学唱歌第二学年用』明治44(1911)年6月28日発行。伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第二学年用』昭和7年5月28日発行版(広島大学蔵)と昭和10(1935)年6月15日訂正発行版(広島大学蔵)。昭和16年版と昭和22年版に掲載はない。

7年版:ヘ長調, $\text{♩} = 92$ 。手元に現物のある昭和10年訂正発行版と広島大学図書館の昭和7年版のPDFの印影に違いは見られない。なお、この版にはもともと前奏はない。

音友版:ヘ長調, $\text{♩} = 92$ 。筆者にとっての最大の謎は前奏である。7年版にはなかった【譜例10】の4小節の前奏は、冒頭の2小節こそ7年版の曲尾の「やまのふもとの」の伴奏そのままだが、3、4小節目が7年版とは全く異なっている。この前奏の出自については現在のところ不明である。それ以外は声部や連桁の書き分け(7年版では8分音符2つずつ、音友版では8分音符が4つ続く場合は4つまとめて)といった外見上の違いを除いて音符、強弱、アーティキュレーションは音友版と7年版は全く同じである。

【譜例10】音友版前奏



教芸版:「本格伴奏」として平吉毅州編曲によるヘ長調の楽譜とト長調の移調譜が掲げられ、昭和7年版に基づく伴奏は「伴奏2」という扱いになっているので、後者を検討する。ヘ長調, $\text{♩} = 88 \sim 96$ 。音友版と同じ前奏がつく。「こいもうすいも」で左手の小節線をまたぐ「ヘ音」、続く「ト音」のタイがなくなっている。

教出版:「本伴奏」として、カノン風の二重唱で知られる中野義見編曲と但し書きのある、ヘ長調の楽譜とト長調の移調譜が掲げられている。ちなみに筆者は前出の音友版の前奏は中野義見の手によるものではと推測していたが、この中野義見編曲の伴奏は全然別物である。昭和7年版に基づく伴奏は「参考楽譜」という扱いだが、これを検討する。ヘ長調, $\text{♩} = 92$ ぐらい。「92ぐらい」というあいまいな但し書き以外、連桁の書き分け(7年版では8分音符2つずつ、音友版では8分音符が4つ続く場合は4つまとめて)の違いを除いて音符(声部の分かち書きも含む)、強弱、アーティキュレーションなど7年版を正確に踏襲していて、前奏はない。

藍川版:教出版同様、連桁の書き分けの違い以外は7年版を正確に踏襲している。

長田版:連桁の書き方も含み7年版と同じ。ただし、「てるやまもみじ」の左手のト音が7年版と異なり符尾が上に伸びている。

《こいのぼり》(現行第5学年)

初出《鯉のぼり》として『尋常小学唱歌第五学年用』大正2(1913)年5月28日発行。伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第五学年用』昭和8年2月15日発行版(7年版, 広島大学所蔵), 『五年生の音楽』(教師使用分)昭和22年6月5日翻刻発行版(22年版, 広島大学所蔵)。昭和16年版に記載はない。

7年版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ 。

22年版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ 。音は7年版と同じ。ただし、「たちばなかおる」に **mp** が加えられ、「あさかぜに」と伸ばす箇所で＜クレシェンド＞が加えられている。

音友版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ 。22年版と同じ。最後の2小節を前奏とするよう指示が追加されている。

教芸版:ヘ長調, $\text{♩} = 92 \sim 100$ 。22年版と同じ。最後の2小節を前奏とするよう指示が追加されている。

教出版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ ぐらい。22年版と同じだが、「あさかぜにー」と伸ばす箇所にあった＜のクレシェンド＞が歌のパートにはあるものの、ピアノパートから抜けている。最後の4小節を前奏とするよう指示が追加されている。

藍川版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ 。7年版と同じ。

長田版:ヘ長調, $\text{♩} = 96$ 。7年版と同じ。

《冬げしき》（現行第5学年）

初出《冬景色》として『尋常小学唱歌第五学年用』大正2（1913）年5月28日発行。伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第五学年用』昭和8年2月15日発行版（7年版，広島大学蔵），『初等科音楽三 教師用』昭和18年5月15日発行（16年版，国会図書館蔵），『五年生の音楽』（教師使用分）昭和22年6月4日翻刻発行版（22年版，広島大学蔵）。

7年版：ト長調， $\text{♩} = 100$ 。

16年版：ト長調，美しく $\text{♩} = 100$ 。児童用の教科書には「美しく」は省かれている。7年版を元になっているものの，三部合唱となり，冒頭左手の4分音符が付点4分音符と8分音符となったり，後半の部分が相当書き換えられていたり，1. 2カッコ，3カッコが加わって，その都度前奏に戻るようになっていたり，ここに書ききれないほど改変が加えられている。

22年版：ヘ長調， $\text{♩} = 100$ 。16年版を踏襲し三部合唱。ただし3番の歌詞が削られて2番までとなり，繰り返しが1カッコ，2カッコとなる。音は最後，内声が動かずに2分音符のままになった点を除いて16年版と同じ。なお強弱記号がやや異なり，前奏がmpからmfに変更，「こえはして」の小節のdim. と，「いまださめずきしのいえ」の二つの>デクレシェンドがなくなっている。

音友版：ヘ長調， $\text{♩} = 100$ 。基本的に22年版。歌詞が3番までに戻ったので，1. 2カッコ，3カッコになっている。なお，最後の「いまださめずきしのいえ」の>デクレシェンドが復活しているものの，長さや範囲がやや異なっている。

教芸版：ヘ長調， $\text{♩} = 96 \sim 104$ 。石桁冬樹編曲とあるものの，これは合唱の部分であろう。伴奏は22年版，音友版と音符は同じである。しかし，歌の始まりの箇所には繰り返し記号が書き込まれているため，前奏は間奏にならなくなる。そして最後の「いまださめずきしのいえ」の二つの>デクレシェンドはあるものの，その長さや範囲は16年版，22年版とも異なる。

教出版：ヘ長調， $\text{♩} = 100$ ぐらい。西崎嘉太郎編曲とあるものの，これは合唱の部分であろう。楽譜は教芸版と同じとってよい。

藍川版：ト長調， $\text{♩} = 100$ 。7年版とほぼ一緒である。ただ一箇所，「こえはして」の小節の左手2拍目の8分音符がト音からイ音に直されている。これは藍川による判断であろう。

長田版：ト長調， $\text{♩} = 100$ 。「こえはして」の小節の左手2拍目の8分音符がト音からイ音に直されている点は藍川版と同じ。ただし，【譜例11】，【譜例12】のように最後の2小節でアルトとテノール声部の扱いが7年版・藍川版とは異なり，声部が「入れ替わって」いる。

【譜例11】冬景色最後7年版



【譜例12】冬景色最後長田版



《おぼろ月夜》（現行第6学年）

初出は大正3（1914）年6月18日発行の『尋常小学唱歌第六学年用』に《朧月夜》として掲載。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第六学年用』昭和8年2月15日発行版（7年版，広島大学蔵），『初等科音楽四 教師用』昭和18年5月15日発行（16年版，国会図書館蔵），『六年生の音楽』（児童使用分）昭和22年7月15日翻刻発行版（22年版，広島大学蔵）。

7年版：ニ長調， $\text{♩} = 72$ 。16年版，22年版と異なり，7年版には前奏がない。

16年版：ニ長調，美しく $\text{♩} = 80$ 。二部合唱となり，7小節の前奏がつく。7年版をもとになっているが，歌の冒頭で伴奏の声部が薄くなるなど，随所で音が変更されている。なお「いりひうすれ」の箇所でも右手の二音が消えて見えるのは，印刷技術上の欠陥であろう。この二音はあるものとみなす。

22年版：ハ長調， $\text{♩} = 80$ 。二部合唱。伴奏は16年版より短く4小節。一箇所，「みわたすやまのは」の右手のスラーが，16年版が「みわたすやまのは」に対して22年版は「みわたすやまのは」となっている点，そして調性，前奏以外は強弱記号も含めて16年版と同じである。

音友版：ハ長調， $\text{♩} = 80$ 。二部合唱。基本的に22年版と同じであるが、「みわたすやまのは」のスラーは16年版と同じになっている。そして「はるかぜそよふく」「そらをみれば」の左手に16年版，22年版になかったスラーが加わっている。なお，右手が2声部以上の場合，符尾の向きなど声部の書き分けに，微細な違いが見られる。

教芸版：ハ長調， $\text{♩} = 76 \sim 84$ 。二部合唱。基本的に22年版と同じであるが，歌に繰り返し記号がつき，「みわたすやまのは」のスラーは16年版と同じになっている。教芸版が他の版と異なる点は，「そらをみれば ゆうづき」の左手のト音の二分音符にさらに四分音符が続いてタイがついている点である。そして，右手が2声部以上の場合，符尾の向きなど声部の書き分けに，これまた他の版とは微細な異同が見られる。

教出版：ハ長調， $\text{♩} = 80$ ぐらい。二部合唱。左手のスラーなど音友版に近いが，「みわたすやまのは」のスラーは22年版と同じ。なお，教芸版同様繰り返し記号があるが，教芸版と異なり，曲尾に1カッコ，2カッコがついている。

藍川版：ニ長調， $\text{♩} = 72$ 美しく。音自体は7年版と同じだが，曲頭の「美しく」や「いりひうすれ」の箇所ので p と mp の追加などに16年版に基づく「改良」がみられる。なお7年版にはある「はるかぜそよふく」「そらをみれば」の左手のスラーは7年版ではあるものの，藍川版では16年版（22年版）同様スラーがない。

長田版：ニ長調， $\text{♩} = 72$ 。音符，アーティキュレーション，強弱記号ともに7年版とほぼ同じである。

あまりに煩瑣になるため詳述しないが，《おほろ月夜》では＜クレシェンド，＞デクレシェンドが特に多く，ほぼ2小節ごとについている上，フレーズがアウトタクトで始まっているため版ごとにつき方がまちまちで，もし＜＞の記号に忠実に演奏しようとする，いずれの版にせよ相当迷うことになる。

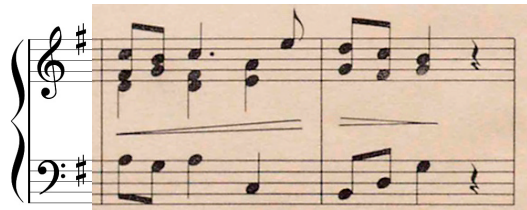
《ふるさと》（現行第6学年）

初出は大正3（1914）年6月18日発行の『尋常小学唱歌第六学年用』に《故郷》として掲載。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第六学年用』昭和8年2月15日発行版（7年版，広島大学蔵），『六年生の音楽』（児童使用分）昭和22年7月15日翻刻発行版（22年版，広島大学蔵）。16年版に掲載はない。

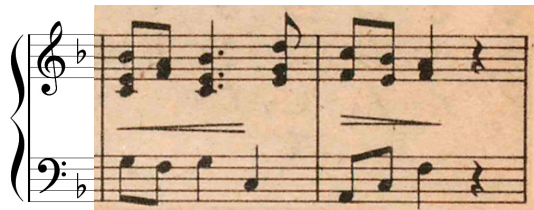
7年版：ト長調， $\text{♩} = 80$ 。

22年版：ヘ長調， $\text{♩} = 80$ 。「こぶなつりしかのかわ」の左手の4分音符の印刷がかすれて見えにくくなっているが，これは7年版と同じハ音と判断できる。「ゆめはいまもめぐりて」の右手の音とリズムが【譜例13】と【譜例14】にみられるように変更されている。また，「わすれがたき」では【譜例15】と【譜例16】にみられるように7年版では両手にあったスタッカートが，22年版では右手だけになっている。

【譜例13】7年版「めぐりて」



【譜例14】22年版「めぐりて」



【譜例15】7年版「わすれがたき」

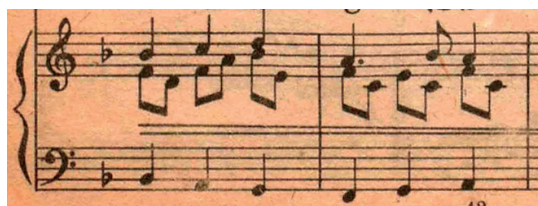


【譜例16】22年版「わすれがたき」



音友版：ヘ長調， $\text{♩} = 80$ 。「めぐりて」右手は22年版と同じだが，【譜例17】と【譜例18】にみられるように「こぶなつりし」右手の内声がヘ音ではなくト音となって和音が変わっている。さらに譜例は略すが，「わすれがたき」ではスタッカートが両手とも消えてしまっている。なお，最後の4小節を前奏として使うよう，指示が書き込まれている。

【譜例17】22年版「こぶなつりし」



【譜例18】音友版「こぶなつりし」



教芸版：ヘ長調， $\text{♩} = 76 \sim 84$ 。伴奏は「わすれがたき」の右手のスタッカートも含めて22年版と同じ。ただし，最後の4小節を前奏に使うよう指示が書かれている点のみ異なる。

教出版：本伴奏として掲載されているのは石井敏による編曲，さらに参考楽譜として掲載されているのは三善晃による編曲版である。

藍川版：ト長調， $\text{♩} = 80$ 。7年版と同じ。

長田版：ト長調， $\text{♩} = 80$ 。7年版と同じ。

《我は海の子》（現行第6学年）

初出は1910年7月14日発行の『尋常小学読本唱歌』に同名で掲載。オリジナルの伴奏は『新訂尋常小学唱歌伴奏附第六学年用』昭和8年2月15日発行版（7年版，広島大学蔵），『初等科音楽四 教師用』昭和18年5月15日発行（16年版，国会図書館蔵），昭和22年版に掲載はない。

7年版：変ホ長調， $\text{♩} = 126$ 。前奏はなし。他の版との比較のために記すと，冒頭「われはうみのこ」mf，「まつばらに」に>デクレシェンド，「けむりたなびく」mp，「わがなつかしき」f，「すみかなれ」>デクレシェンドとなっている。すなわち，<クレシェンド記号はない。

16年版：前奏がつくものの，7年版とは全く異なる簡易伴奏風の伴奏となっている。後の版への継承はない。

音友版：ニ長調， $\text{♩} = 126$ 。調性以外は7年版とほぼ一緒だが，最後の4小節を前奏とするよう指示がある。また「けーむり」の箇所が，7年版【譜例19】では2分音符，音友版【譜例20】では4分音符2つになっている。また，強弱記号は「われはうみのこ」mf<，「さわぐいそべの」<，「まつばらに」>，「けむりたなびく」mp<，「とまやこそ」>，「わがなつかしき」mf<，「すみかなれ」>となっている（「しらなみの」に>はない）。

【譜例19】7年版「けーむり」



【譜例20】音友版「けーむり」



教芸版：ニ長調， $\text{♩} = 120 \sim 132$ 。調性以外の音符は7年版と一緒だが，最後の4小節を前奏とするよう指示がある。なお冒頭「われはうみのこ」mf<，「さわぐ」<，「まつばらに」>，「けむりたなびく」mp<，「とまやこそ」>，「わがなつかしき」mf<，「すみかなれ」>と音友版とほぼ同じ強弱記号がつけられているが，それらの長さが若干異なる。

教出版：ニ長調， $\text{♩} = 126$ ぐらい。曲の最後の4小節「わがなつかしきすみかなれ」の伴奏が，そのまま独立した前奏として書き加えられている。音符自体に7年版との違いはない。教出版の楽譜の特徴は，強弱記号が伴奏パートでなく歌唱パートの上にかかれていること。しかし伴奏パートに強弱記号が無いわけではなく，曲の最後だけに>デクレシェンド（前奏も同じ）がつけられている点である。歌唱パートについての強弱記号は7年版，音友版，教芸版とは異なり，冒頭にmfがあって4小節ごとにく，>のクレシェンド，デクレシェンドがつき，途中mpやmf，fなどはない。

藍川版：変ホ長調， $\text{♩} = 126$ 。音符自体は昭和7年版と同じだが，強弱記号が相当異なっている。具体的には冒頭mf，「さわぐいそべの」<，「まつばらに」>，「けむりたなびく」mp，「とまやこそ」<，「わがなつかしき」f，「すみかなれ」mf，>といった具合である。もう一点気づいたのは冒頭の拍子記号が他の版では全て4/4

表記なのに藍川版のみ C で表記されている点である。

長田版：変ホ長調，♩ = 126。音符も強弱記号も昭和 7 年版と同じである。

結 論

考えてみれば、現在「歌唱共通教材」として残っている文部省唱歌は、教科書掲載曲のごく一部なのである。時代とともに音楽科の教科書もアップデートされ、「本伴奏」が変化してゆくことも致し方のないことであろう。もし文部省唱歌を「オリジナル」の伴奏で演奏しようと思うのだったら、『新訂尋常小学唱歌伴奏附』（昭和 7 年版）、『ウタノホン／うたのほん／初等科音楽』（昭和 16 年版）、『〇年生の音楽』（昭和 22 年版）を国立国会図書館デジタルコレクション、あるいは広島大学図書館教科書コレクション画像データベースなどからダウンロードし比較した上で、演奏すればよい。とはいえ本論では取り上げなかったが、下總皖一の『野菊』を CD に録音する際には『初等科音楽』一に所収の伴奏ではなく、作曲者本人の手によると思われる別の版の楽譜を採用した。近年では様々な編曲による唱歌の演奏が百花繚乱のごとく巷にあふれているが、しかし、オリジナルの伴奏にもこれはこれで独特の味わいと価値があることも、また事実なのである。

引用／参考文献

以下、「広島大学」とあるのは広島大学図書館教科書コレクション画像データベース、「国会図書館」とあるのは国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧、ダウンロードができる。

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第二学年用』昭和 7 年 5 月 28 日（広島大学）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第二学年用』昭和 10 年 6 月 15 日訂正発行（広島大学）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第三学年用』昭和 7 年 5 月 28 日（広島大学）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第三学年用』昭和 10 年 6 月 15 日訂正発行（筆者蔵）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第四学年用』昭和 8 年 2 月 15 日発行（広島大学）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第四学年用』昭和 10 年 6 月 15 日訂正発行（筆者蔵）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第五学年用』昭和 8 年 2 月 15 日発行（広島大学）

文部省『新訂尋常小学唱歌伴奏附第六学年用』昭和 8 年 2 月 15 日発行（広島大学）

文部省『ウタノホン上 教師用』昭和 16 年 6 月 10 日発行（国会図書館）

文部省『初等科音楽一 教師用』昭和 17 年 4 月 30 日発行（国会図書館）

文部省『初等科音楽三 教師用』昭和 18 年 5 月 15 日発行（国会図書館）

文部省『初等科音楽四 教師用』昭和 18 年 5 月 15 日発行（国会図書館）

文部省『三年生の音楽』（教師使用分）昭和 22 年 5 月 15 日翻刻発行（広島大学）

文部省『五年生の音楽』（教師使用分）昭和 22 年 6 月 5 日翻刻発行（広島大学）

文部省『六年生の音楽』（児童使用分）昭和 22 年 7 月 15 日翻刻発行（広島大学）

初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社、2020 年。

小原光一ほか著『小学生のおんがく／音楽』1～6 指導書、教育芸術社、2020 年。

新実徳英ほか著『おんがくのおくりもの』1～6 指導書、教育出版、2020 年。

藍川由美校訂・編『日本の唱歌【決定版】— 改訂版・楽曲解説・歌詞発音新案ローマ字表記付き —』音楽之友社、2006 年

長田暁二編著『日本唱歌名曲集』全音楽譜出版社、1998 年。

江崎公子、澤崎眞彦編著『唱歌大事典』東京堂出版、2017 年。

日本音楽教育センター企画・制作『新訂尋常小学唱歌』CD 6 枚、付属写真集付復刻版、日本音楽教育センター、平成 9 年。

下總皖一作品撰集刊行会編『下總皖一作品撰集 声楽篇』音楽之友社、昭和 55 年。

**Memorandum on “Hon-Bansō(main accompaniment)”
for Common teaching materials for singing or Monbushō shōka
(Ministry of Education songs)**

YAMADA Hiroaki

This paper compares the accompaniment scores of the Ministry of Education songs, which are currently used as common teaching materials for elementary school singing. The comparison targets the original piano accompaniment scores published by the Ministry of Education itself, the accompaniment scores for teachers in the current elementary school music course textbooks, and the scores in the textbooks for teacher training courses. Then, considering the meaning of “main accompaniment”, it provides criteria for classical musicians to select scores.

Specifically, the following 11 songs are targeted.

“Umi(The Sea)” “Chatsumi(Tea Leaf Picking Song)” “Haru-no Ogawa(A Spring Creek)” “Fujisan(Mt. Fuji)”
“Makiba-no Asa(Ranch Morning)” “Momiji(Autumn Leaves)” “Koinobori(Carp Streamers)” “Fuyugeshiki(Winter Scenery)” “Oborozukiyo(Hazy Moonlight Night)” “Furusato(My Country Home)” “Ware-wa Umi-no Ko(I am An Ocean Boy)”